

中 学 校

平成 30 年度

教育研究員研究報告書

特別活動

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究仮説	2
IV	研究方法	4
V	実践研究の概要	6
VI	成果の検証	17
VII	研究の成果	21
VIII	研究の課題	23

研究主題

自己実現のために必要な資質・能力を高める学級活動の工夫 ～自他のよさを認め合う話し合い活動を通して～

I 研究主題設定の理由

平成 30 年度東京都教育研究員の共通テーマは、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善である。特別活動における「主体的・対話的で深い学びの実現」とは、「各活動・学校行事の学習過程において、授業や指導の工夫改善を行うことで、一連の活動過程の中での質の高い学びを実現すること」¹であるとともに、特別活動の各活動・学校行事の内容を深く理解し、それぞれを通して資質・能力を身に付け、中学校卒業後も能動的に学び続けるようにすることでもある¹と、新学習指導要領解説に記されている。同学習指導要領解説・特別活動編において、特別活動で育成を目指す資質・能力や、それらを育成するための学習過程の在り方を、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つの視点²で整理されたことを踏まえ、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善のために研究を進める必要がある。

そこで、生徒の実態を把握するために、三つの視点²を踏まえたアンケートを作成し、調査を実施した。その結果、多くの生徒は、他人のために力を尽くしたいと考えているが、積極的に行動することが苦手であり、相手の意見を聞き、協力して活動することはできるが、学級活動で自分の意見を積極的に発言することは苦手であるということが明らかになった。また、自分の役割に責任をもって行動しているが、自分のよさを自覚することへの認識が低く、そのよさを学級活動で生かしているのか実感をもてていないということが分かった。このことから、生徒は特別活動の三つの視点の中でも、特に「自己実現」についての意識があまり高くはないことが明らかになった。

以上のアンケート調査による生徒の実態から、研究主題を設定するに当たり、自他のよさや可能性を認め合うことで、自信をもって学級における生活上の諸課題にチャレンジできるようになる生徒を育てる必要があることが分かった。

また、研究を進めるにあたり、研究員の所属校で教員対象の特別活動に関するアンケートを実施した。その結果、次の三点が課題として挙げられた。

一点目は、学級活動において教員が活動のねらいを明確にせずに指導をしていることである。教員が学級活動のねらいや意義を生徒に明確に示し、それらを生徒に意識させて学級活動等に取り組ませる必要がある。そのため、生徒に身に付けさせたい資質・能力が何であるのかを教員が明確に意識して指導することで、生徒の資質・能力の向上につながると考えた。

二点目は、学級活動において、話し合い活動が効果的に実施されていないことである。アンケートでは、学級活動における話し合い活動の時間は確保されているものの、積極的に発言をする生徒が少ないなど、話し合い活動の指導に課題を感じている教員が多かった。

¹「中学校学習指導要領解説 特別活動編」第 2 章 第 1 節 3（文部科学省平成 29 年 7 月）

²「中学校学習指導要領解説 特別活動編」第 2 章 第 1 節 1（文部科学省平成 29 年 7 月）

三点目は、生徒が活動内容を振り返る時間を確保できていないことである。そのため、生徒が活動を振り返ることで自分の成長を実感し、意欲的に次の活動に向かうことができると考えた。生徒が小学校で培った特別活動における資質・能力の中で、特に、「自己実現」の視点をもち、より充実させることが、「主体的・対話的で深い学び」の実現につながると考えた。

以上の課題を踏まえ、本研究では、学級活動において、生徒が学級における自己の生活上の課題を、自他のよさを認め合う話し合い活動を通して自分事として捉え、自己の役割を振り返り、自己理解を深め、自分のよさや可能性に気づき、課題解決に向けて実践できるよう学級活動の方法を工夫すれば、自己実現のために必要な資質や能力が高まり、特別活動の目標に掲げられた資質・能力が身に付くと考え、本主題を設定した。また、本研究における「自己実現」のために必要な資質・能力を、学習指導要領解説・特別活動編²の説明を参照し、「自己のよさや可能性を生かす力」と仮定した。

Ⅱ 研究の視点

1 「ねらいや意義の示し方の工夫」

学級活動のねらいや意義を明確に示すことで、生徒が学級における自己の生活上の課題について自他のよさを認め合う話し合い活動を通して自分事として捉え、自己のよさへの自己理解を深めることで自分のよさや可能性を生かした課題解決のための実践ができると考えた。

2 「話し合い活動を充実させるための工夫」

話し合い活動を充実させるためには、教師が小学校との系統性を踏まえ、生徒がこれまで身に付けてきた力や方法を把握するとともに、学級目標に基づき、生徒一人一人が学級で他生徒のために役割を果たしていることを、係活動や当番活動等で意識させる。また、生徒の実態に即したテーマを設定し、ホワイトボードの活用やワークシートに付箋を貼るなど、視覚的に活動を把握することのできる工夫を取り入れることが有効であると考えた。

3 「評価や振り返りを積み重ねることの工夫」

生徒による自己評価、相互評価や教師による評価及び生徒自身による振り返りを積み重ねることにより、生徒は成果と課題を把握し、自己の在り方や生き方を考え設計する力や自己のよさや可能性を生かすことにつながっていくのではないかと考えた。

また、上記1から3までを計画的な学習過程を経て指導することで、生徒が「自己実現」のために必要な資質・能力である「自己のよさや可能性を生かす力」を身に付けることができると考えた。

Ⅲ 研究仮説

生徒が学級における自己の生活上の課題を、自他のよさを認め合う話し合い活動を通して自分事として捉え、課題の解決に向けて自己のよさや可能性を生かして実践できるようになれば、自己実現に必要な資質・能力が高まるであろう。

研究構想図

特別活動の目標

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることを理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
- (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。
- (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

学級活動の目標

学級や学校での生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力して実践したり、学級での話し合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して実践したりすることに、自主的、実践的に取り組むことを通して、目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。

生徒の実態（教育研究員の所属校）

- 「人間関係形成」に関する生徒の実態
 - ・友達のよさを認め、相手の意見を受け入れることはできるが、それをよりよい人間関係に生かすために、積極的に自分の意見を主張したりすることが苦手である。
- 「社会参画」に関する生徒の実態
 - ・人のために力を尽くしたいと考えられるが、積極的に行動することが苦手である。
- 「自己実現」に関する生徒の実態
 - ・自分の役割に責任をもっているが、自分のよさや可能性を生かす力に対する認識が低く、またそのよさや可能性を学級活動で生かしているか実感をもつことができていない。

身に付けさせたい力・目指す生徒像

- 「人間関係形成」
 - ・集団の中で、人間関係を自主的、実践的によりよいものへ形成できる生徒
 - 「社会参画」
 - ・集団や社会に参画し様々な問題を主体的に解決しようとする生徒
 - 「自己実現」
 - ・自己のよさや可能性を生かして、生活の課題を発見し、よりよく改善しようとする生徒
- 今年度は「自己実現」に焦点を当てた**

研究主題

自己実現のために必要な資質・能力を高める学級活動の工夫
～自他のよさを認め合う話し合い活動を通して～

研究仮説

生徒が学級における自己の生活上の課題を、自他のよさを認め合う話し合い活動を通して自分事として捉え、課題の解決に向けて自己のよさや可能性を生かして実践できるようになれば、自己実現に必要な資質・能力が高まるであろう。

IV 研究方法

1 文献・資料による研究

- ・ 「中学校学習指導要領 特別活動」(文部科学省 平成 29 年 3 月)
- ・ 「中学校学習指導要領解説 特別活動編」(文部科学省 平成 29 年 7 月)
- ・ 「学級・学校文化を創る特別活動(中学校編)」(国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成 26 年 6 月)
- ・ 教育研究員報告書 中学校特別活動(東京都教育委員会 平成 25 年度～平成 29 年度)
- ・ 「評価基準の作成、評価方法等の改善のための参考資料(中学校特別活動編)」(国立教育政策研究所 平成 23 年 11 月)

2 実践研究

(1) 教材開発

学級活動の内容「(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」、「ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成」に基づき、生徒が自他の個性を理解して尊重し、互いのよさや可能性を発揮しながら自信をもって自己実現に関わる行動ができることで、よりよい集団生活につながるよう、指導方法、指導計画、学習指導案を工夫した。

(2) 授業以外での日々の実践

授業で使用した生徒の個人目標を記したワークシートを教室に掲示することで、生徒が日頃から学級目標の実現に向けて意識を高められるようにした。また、仲間から伝えられた自分のよさと、自分の行動目標をワークシートで確認できるようにしたことで、日々の実践について自信をもって行動に移すことができるよう工夫した。

(3) 検証授業

学級目標を題材として、学級活動の内容「(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の「ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成」に基づく検証授業を実施した。3回の検証授業を「問題の発見・確認」、「解決方法等の話し合い」、「解決方法の決定」、「決めたことの実践」、「振り返り」、「次の課題解決へ」というサイクルで関連させ、学級目標の達成に向けて互いのよさを認め合いながら生徒一人一人が自分のよさを認識し、自分事として捉えさせ、自信をもって実践できるよう学習過程を設定した。

(4) 成果検証

本研究では、平成 25 年度から平成 29 年度までの東京都教育研究員が開発した「学級活動におけるアンケート」の質問項目を参照し、21 項目からなる生徒用アンケート(表 1 p 5)を作成して、生徒の実態把握と成果検証を行った。アンケートの項目は、学習指導要領において、特別活動で育成すべき資質・能力に加え、これまで目標で示してきた要素や特別活動の特質、教育課程全体において特別活動が果たすべき役割を勘案して、「人間関係

形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つの視点で分類した。本研究では、この中でも、特に自己のよさや可能性を生かす力、自己の在り方や生き方を考え設計する力など、集団の中において、個々人が共通して当面する現在及び将来に係る課題を考察する中で育まれる「自己実現」に焦点を当て分析した。なお、「自己実現」を1・3・4・19・20・21の質問事項、「人間関係」を2・5・6・16・17・18の質問項目、「社会参画」を7・8・9・10・11・12・13・14・15の質問項目と関連付けている。

表1 学級活動におけるアンケート

これは学級活動に関するアンケートです。今の自分の気持ちや行動に近いものを一つ選び、数字に○を付けてください。

4 あてはまる 3 どちらかといえばあてはまる 2 どちらかといえばあてはまらない 1 あてはまらない

1	私は自分のよさを学級活動で生かしている。	4	3	2	1
	自分のよさを書いてください。(自由記述)				
2	私は友達のよさを認めて行動している。	4	3	2	1
	気付いた友達のよさを書いてください。(自由記述)				
3	私は、学級活動で班員に自分の意見を述べることができる。	4	3	2	1
4	私は、学級活動で学級全体に自分の意見を述べるができる。	4	3	2	1
5	相手の意見や考えが自分と違っていても、相手の意見や考えを認めることができる。	4	3	2	1
6	意見や考えが人と違っていても、自分が正しいと思うことを主張できる。	4	3	2	1
7	私は友達や学級のためになることは、自分で見付けて実行している。	4	3	2	1
8	学級活動で発言するとき、恥ずかしいと思わない。	4	3	2	1
9	私は自分から積極的に学級や班の活動に取り組んでいる。	4	3	2	1
10	私は人のために力を尽くしたい。	4	3	2	1
11	私は学級のよいところと課題を理解している。	4	3	2	1
12	私は学級の課題解決や目標達成に向けて行動したいと思う。	4	3	2	1
13	学級集団で活動するときに、人任せにしてしまうことがある。	4	3	2	1
14	私は学級の課題解決や目標達成のために行動している。	4	3	2	1
15	私は学級の課題解決や目標達成のために仲間と協力して取り組んでいる。	4	3	2	1
16	自分の学級は居心地がよい。	4	3	2	1
17	私は仲間の意見を生かしながら話し合い活動に取り組んでいる。	4	3	2	1
18	友達は私のよいところを見付けようとしている。	4	3	2	1
19	私は学級活動での自分の役割に責任をもって取り組んでいる。	4	3	2	1
20	私は学級活動を行う上での自分の課題を理解している。	4	3	2	1
	理解している自分の課題を書いてください。(自由記述)				
21	私は学級活動を通して、自分の成長を感じている。	4	3	2	1
	自分の成長を感じるところを書いてください。(自由記述)				

()年()組()番 氏名()

V 実践研究の概要

1 教材開発

学級活動(2)の学習過程は「中学校学習指導要領解説特別活動編」(平成29年7月)³に例示のとおり、「問題の発見・確認」、「解決方法等の話し合い」、「解決方法の決定」、「決めたことの実践」、「振り返り」であり、課題解決に向けた取組の意義や生徒主体による意思決定などが示された。そのため、生徒が主体的に自他の個性を理解して尊重し、互いのよさや可能性を發揮しながらよりよい集団生活をつくることを目的に学習過程のモデル図(p10)を作成し、このモデル図に基づき、「問題の発見・確認」を生徒主体で進めるために、学級委員用の司会原稿を生徒主体で作成し、司会を進行しやすいように話型も用意した。また、「解決方法の決定」に向けて、学級や自己の評価を深めるために、視覚的な工夫を取り入れた掲示物を作成した。更に、話し合い活動が活発になるように、学級のよさや課題をまとめた短冊や、互いの意見を付箋に書いて貼ることのできるワークシートを作成した。そして、生徒が常に活動を振り返り、自己実現に向けた取組の過程を確認できるようにポートフォリオを作成した。

(1) ねらい

- ア 生徒が課題を自分に関わりのあることとして取り上げ、話し合いができるようにする。
- イ 話し合いが活発になるように、意見を出しやすくする。
- ウ 学級の課題やよさ、自己の課題やよさを視覚的に把握できるようにする。
- エ 自分が立てた目標や解決した課題を振り返ることができるようにする。
- オ 集団における仲間のよさや可能性を確認し合うことで、互いの個性の理解と尊重ができるようにする。

(2) 使用にあたって

<学級委員用の司会原稿>

- ア アンケートをとり学級の課題を把握し、話し合い活動が活発に行われるように、司会進行の流れを考える。
- イ 学級委員の思いや考えを伝えられるように、学級委員の言葉で伝える部分を設定する。
- ウ 事前に学級委員へ台本を渡し、学級活動のねらいが十分に伝えられるように、指導する。

【学級委員用の司会原稿の例】 (p6 (1)ねらい ア)

2学期の個人目標の振り返り (学級委員用)

1 はじめに (7分)

今日は、みんなで、2学期の始めに考えた個人目標の振り返りと2学期の後半に向けてクラスをよりよくするために、お互いのよさがどれだけ發揮されているのかを確認し、どのような行動をしていることが必要なのかを考えます。

※個人目標が書かれたワークシートを学習係が返却する。

私の個人目標は『学級委員の言葉で表現』です。



³「中学校学習指導要領解説 特別活動編」第3章 第1節1 (文部科学省 平成29年7月)

<短冊・ワークシート>

ア 事前にアンケートをとり、学級のおよさや課題を短冊に分ける。

生徒は短冊を小グループで分析し、発表する。

イ 互いのおよさを付箋に書き、相手のワークシートに発表しながら貼っていく。

【短冊の例】(p 6 (1)ねらい イ)

オン・オフを分けて、行動できる。

帰りの学活では係の人が明日の持ち物を言おう。

発言が少ない。

学級のおよさや課題を短冊に記し、班で分類・分析する。

【ワークシートの例】(p 6 (1)ねらい イ)

学級をよくするキーワード		自己評価	友達からの評価
例	明るい		いつも話しかけてくれてありがたい。
1			
2			
3			
4			
5			他者の評価が書かれた付箋を貼る。

<掲示物>

ア 学級のおよいところや改善策、友達の個人目標をそれぞれ分類し、色分けして掲示する。

イ 学級目標の達成率を数値化し、メーターで示す。学級目標の達成状況に応じてメーターの数値を動かし、学級目標の達成状況を視覚的に把握できるようにする。

【掲示物の例】 (p 6 (1)ねらい ウ)

学級のおよいところ、増やしたい行動、実践すること

学級目標達成メーター

(よいところ)	(増やしたい行動)	(実践すること)	<p>学級目標達成メーター</p>
気軽に話せる。	授業に集中する。	発言を増やす。	
とても明るい。	皆で注意する。	男女で話す。	

<ポートフォリオ>

ア 学級活動で取り組んできたワークシートなどを時系列順に重ねて貼る。

過去のワークシートが確認できるように、上部のみを貼り付ける。

イ 学級の壁に貼り、互いに見合うことで生徒各自の実践を確認できるように掲示する。

【ポートフォリオの例】 (p 6 (1)ねらい エ、オ)

〇〇の振り返り

- ・氏名を書かせることによって互いの実践を振り返り、確認できるようにする。
- ・使用したワークシートを時系列順に重ねて貼り、教室に掲示することで、実践による取組状況を把握できるようにする。

2 検証授業

(1) 題材

「学級目標の実現に向けて」

(2) 題材設定の理由

自己実現のために必要な資質・能力を高めるために、研究の三つの視点（「ねらいや意義の示し方の工夫」、「話し合い活動を充実させるための工夫」、「評価や振り返りを積み重ねることの工夫」）に基づき、学級活動(2)アで検証授業を行う。題材は、生徒が学級における自己の生活上の課題を、自他のよさを認め合う話し合い活動を通して自分事として捉え、課題の解決に向けて自己のよさや可能性を生かして実践できるよう、学級目標の実現とする。

(3) 研究の視点に基づいた授業の工夫

ア 活動の意義を明確にし、生徒に伝える工夫

学級委員が活動の意義について自分で考えた言葉で伝えられるように事前指導を行う。

イ 話し合い活動を活発にすることの工夫

学級活動(2)における学習過程(例)³を参照し、検証授業では「問題の発見・確認」、「解決方法等の話し合い」、「解決方法の決定」において生徒主体の活動を設定することに着目し、主体的に話し合い、その後、実践に向けて意思決定する場面を設定した。また、学級の生活に係るアンケートの分類や生徒が実践する内容などの活動を、生徒自身が計画的に活動できるよう、活動全体の見通しや意義を事前に伝えてから取り組ませることで、自分のよさや可能性を生かせる実践となるように展開する。

ウ ねらいに則した評価を積み重ねる工夫

本時の班活動の振り返りにおいて、互いのよかった行動を認め合う活動を行い、自分の行動が他者の役に立っていることを実感させる。

なお、本研究では検証授業を行った学級が特定されることを避けるため、具体的な学級目標は掲載しない。

(4) 評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活について の知識・理解
よりよい学級の生活づくりに関心を持ち、話し合い活動に自主的、自律的に参加しようとしている。	学級の一員として、互いの意見を尊重しながら、よりよい学級目標について考え、理由を示して意見を述べている。また、意欲的に自分の考えをまとめている。	学級目標を達成することの意義や学級集団としての意見をまとめる話し合い活動の仕方を理解している。

³ 「中学校学習指導要領解説 特別活動編」第3章 第1節1（文部科学省 平成29年7月）

(5) 指導計画

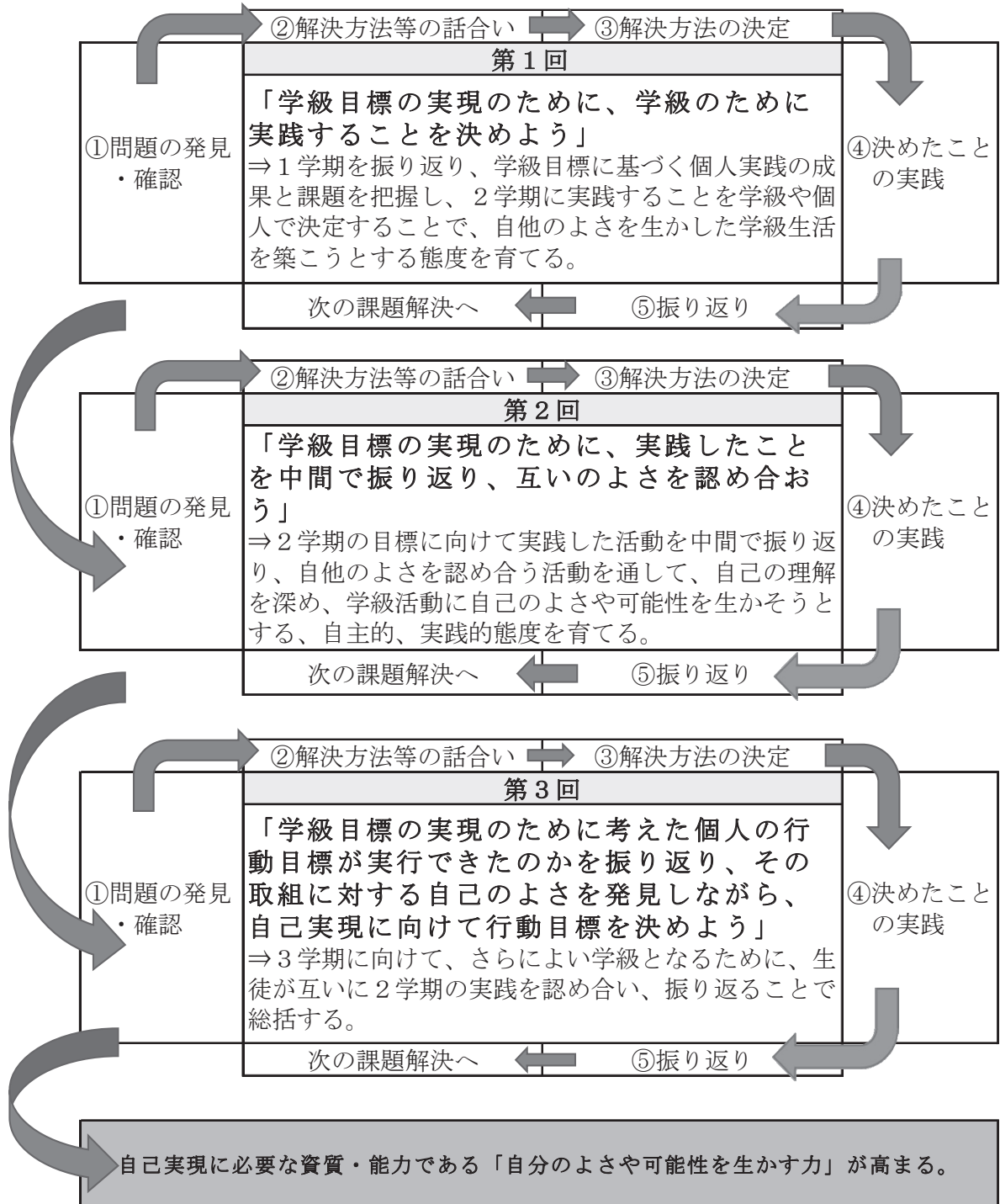
時期	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と 評価方法
9月	◇【 検証授業1 】 ・「学級目標の実現のために、個人で実践することを決めよう」	・1学期の様々な活動や場면을振り返るアンケート調査を行い、その結果より、学級目標と学級活動を振り返らせ、2学期を通して、自分のよさを生かして個人で実現可能なこと、学級のためにできるよいことを考えさせる。	【 思考・判断・実践 】 ・学級の一員として互いのよさを認め合いながら、よりよい行動について考え、理由を示して意見を述べている。〔 観察 〕 【 知識・理解 】 ・よりよい学級の生活づくりのための話し合い活動の仕方を理解している。 〔 ワークシート 〕
10月	◇【 検証授業2 】 ・「学級目標の実現のために取り組んだ個人目標の振り返りをしよう」	・実践した活動を振り返り、自己評価、他者評価を基にして、個人実践を意欲的に取り組めるようにする。	【 思考・判断・実践 】 ・学級の一員として互いのよさを認め合い、意欲的に自分の考えを述べることができる。 〔 観察 〕〔 ワークシート 〕 【 関心・意欲・態度 】 ・個人目標を振り返り、よりよい生活づくりに関心をもつことができる。 〔 観察 〕
11月	◇【 検証授業3 】 ・「学級目標の実現のために取り組んだ個人目標のまとめをしよう」	・2学期の様々な活動や場면을振り返るアンケート調査を行い、その結果から学級目標と学級活動を振り返らせ、3学期に向けて、自分のよさを生かして個人で実現可能なこと、学級のためになるよいことを考えさせる。	【 関心・意欲・態度 】 ・よりよい学級の生活づくりに関心をもち、話し合い活動に自主的、自律的に参加しようとしている。 〔 観察 〕 【 思考・判断・実践 】 ・学級での集団活動の向上に関心をもち、意欲的に自分の考えをまとめている。 〔 ワークシート 〕

(6) 学習過程のモデル図

【研究仮説】

生徒が学級における自己の生活上の課題を、自他のよさを認め合う話し合い活動を通して自分事として捉え、課題の解決に向けて自己のよさや可能性を生かして実践できるようになれば、自己実現に必要な資質・能力が高まるであろう。

検証授業



(7) 検証授業

【第1回】

ア 本時の活動のテーマ

「学級目標の実現のために、学級のために実践することを決めよう」

(内容項目：学級活動(2) ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成)

イ 本時のねらい

- ・ 1学期を振り返り、学級目標に基づく個人実践の成果と課題を把握し、2学期に実践することを学級や個人で決定することで、自他のよさを生かした学級生活を築こうとする態度を育てる。
- ・ 話し合い活動を振り返り、自他のよさを互いに認め合うことで、自主的によりよい学級生活を築こうとする態度を育てる。

ウ 本時の展開

	学習活動・学習内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
活動の開始 10分	1 本時の活動について ・学級委員の話 (題材設定の目的や本時の進め方について)	・学級委員に活動の意義や流れを説明させる。 ・学級委員が活動の意義を自分なりに考えて伝えることで、その意義が生徒全体に伝わるようにする。	
活動の展開 30分	2 振り返りアンケートの分類と分析 ・アンケート結果の配布 ・アンケートの分類 ・アンケートの分析 3 その原因となる行動を考える	・1学期末に実施したアンケートの結果を班ごとに配布する。 ・アンケート項目 「自分のクラスのよいところ」 「改善した方がよいと思うところ」 ・学級目標に基づきアンケート結果を分類する。 ・班長を中心に班全員が自分の意見を言うことができるようにする。 ・ホワイトボードを使用し、意見をまとめる。 ・班長が司会をする。 ・書記と発表者を班員から決める。 ・どんなよい行動があったのか、どんなよい行動が足りなかったのか	【思考・判断・実践】 ・学級の一員として互いの意見を尊重しながら、よりよい行動について考え、理由を示して意見を述べている。 〔観察〕、〔ワークシート〕

	4 学級のために自分のよさを生かして実践することを決める。	などを考えさせる。 ・2学期を通して、自分のよさを生かして、学級のためになる実践を考えさせる。	
活動のまとめ 10分	5 本時の活動を振り返る。 ・学級委員の話 ・担任の話 ・感想の記入	・学級委員から活動の振り返り、2学期の意気込みについて話をする。	【知識・理解】 ・よりよい学級の生活づくりのための話合い活動の仕方を理解している。 〔観察〕

エ 資料等（実践における生徒の記述から）

【短冊】

- いざという時に団結力がある。
- 困っている人がいたら助ける。
- 私語が止まらず、落ち着かない時がある。
- 授業中の意見が少ない。

クラスのよいところ、改善したほうがよいところを短冊に書いた後、学級目標に基づき、生徒自身で分類する。

学級のために自分のよさを生かして実践する行動を決めて、2学期の目標として掲示する。

【目標の掲示】

実践すること
あいつができているので、出し
令のあいつでは元気に声を
して、みんなのやる気を高める。
○組 名前○○○○

二学期の目標

オ 検証授業を終えて

(1) 生徒の様子

- ・ 生徒の感想では、「自分たちのクラスについて、真剣に考えることができた」、「班員の意見に対して自分の意見をしっかり言えた。」などを記入していた。
- ・ 生徒が自分の意見を吟味したり、班活動で互いの考えを伝え合ったりしたことで、自分のよさをどのような行動で生かすことができるのか考えられるようになった。

(2) 指導の工夫

- ・ 話合いの場面では「アンケートの分類」、「アンケートの記名」などの活動を設定し、班員全員が参加しやすく意見を伝え合うことができる環境を設定した。
- ・ 生徒が本時を振り返る際は、自他のよさを認め合う話合い活動を行ったことを踏まえ、学級全体で、「本時の活動における仲間のよかった行動」を、生徒一人一人が意識して振り返らせることで、自分の行動が自信を深めることにつながられるようにした。

【第2回】

ア 本時の活動のテーマ

「学級目標の実現 中間の振り返りをしよう」

(内容項目：学級活動(2)ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成)

イ 本時のねらい

学級目標の実現に向けて、生徒の個人目標に基づく実践の成果を互いに認め合う活動を通して、学級において生徒一人一人に自分のよさを生かした自己実現を図ろうとする態度を育てる。

ウ 本時の展開

表中の「※1、2」は「エ 資料等」の吹き出しに対応している。

	学習活動・学習内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
活動の開始 10分	1 本時の活動についてのねらいを知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・学級委員にアンケート結果の発表、振り返りの意義や活動の流れを説明させる。 ・学級委員が活動の意義を自分に関わりのあることとして話し、その意義を学級全体に伝わるようにする。 	
活動の展開 35分	2 学級目標の振り返り掲示物※1を用いて学級目標実現に向けたキーワードを確認し、シートに書き込む。 3 個人が実践の評価を4段階で行う。 4 生活班の班活動で互いの実践を評価する。 5 他者からの評価を受けて、再度、自己のよさについてまとめる。 6 さらに学級をよくするために、個人目標を見直す。	<ul style="list-style-type: none"> ・「行動の振り返りシート」を配布し、増えるとよい行動、続けたい行動のキーワードを学級委員が読み上げ確認していく。 ・互いのよさを認め合えるように付箋を使用し、自分の意見を言いやすくする。※2 ・2学期の後半に実現可能なこと、学級のためになるよいことを考えさせる。 	<p>【思考・判断・実践】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級の一員として互いのよさを認め合い、意欲的に自分の考えを述べることができる。 <p>[観察] [ワークシート]</p>

活動のまとめ 5分	7 本時の活動を振り返る。 ・学級委員の話 ・担任の話 ・感想の記入	・学級委員が活動を振り返り、2学期の今後の実践に向けて話をする。 ・担任が学級全体に向けて、今後の一人一人の活動意欲を高めるために、実践の成果と課題を伝える。	【関心・意欲・態度】 ・個人目標を振り返り、よりよい生活づくりに関心をもつことができる。 〔観察〕
--------------	---	--	---

エ 資料等（実践における生徒の記述から）

【学級目標の振り返り掲示物】

よいところ	増やしたい行動	自分のクラスのために実践すること
明るい。	自信をもって発表しよう。	大きな声であいさつする。
学級目標を守っている。	積極的に行動しよう。	係の仕事を自分からやる。
団結力がある。	もっと多くの人と話して協力する。	優しいところを生きかし、声を掛ける。

・学級の振り返りをまとめ、学級委員が発表し、掲示する。※1

・増やしたい行動や2学期の個人目標を掲示し、発言しやすくする。

【振り返りシートの例】

学級をよくするキーワード	自己評価	友達からの評価
明るい	○	いつも話してくれて助かる。

・キーワードに基づき、自分で当てはまると感じたら○を付ける。

・班員のシートに付箋を貼り、発表する。※2

オ 検証授業を終えて

(1) 生徒の様子

- ・ 生徒の感想をみると、「自分のよさにあらためて気付くことができた。」「自分のよさをこれからの活動に生かしていきたい。」など、本時の活動を通して生徒が友達からの評価を受けて、今まで気付けなかった、意識していなかった自分のよさに気付くことができた。また、課題に対して自分で考えた目標を立て、これからの生活に臨もうとする意欲をもつことができた。

(2) 指導の工夫

- ・ 本時のねらいを自分に関わりのあることとして生徒が捉えるために、生徒が課題を提起し、話合う活動となるような場面設定をした。
- ・ 学級のよいところや増やしたい行動などを黒板に掲示することで、視覚的に学級のよさをつかむことができるようにした。その結果、互いのよさを認め合う言葉の語彙が増え、自分のよさを認め合う話合い活動を活発にすることができた。

【第3回】

ア 本時の活動のテーマ

「学級目標の実現 今までの活動を確認し、さらなる向上を目指そう」

(内容項目：学級活動(2)ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成)

イ 本時のねらい

学級目標の実現に向け、中間の振り返りを行い、その実現に向けて自分自身の行動目標を再確認する。そして、その目標達成に向けて、自分のよさを生かしながら実際に行動に移すことができたのかを確認する。また、さらにより学級にするためには何が必要であるのかを考え、今まで実践したことに自信をもちながら、よりよい学級とするために必要な行動を考え、他の生徒と協力し、学級目標を実現できるよう実践力を育てる。

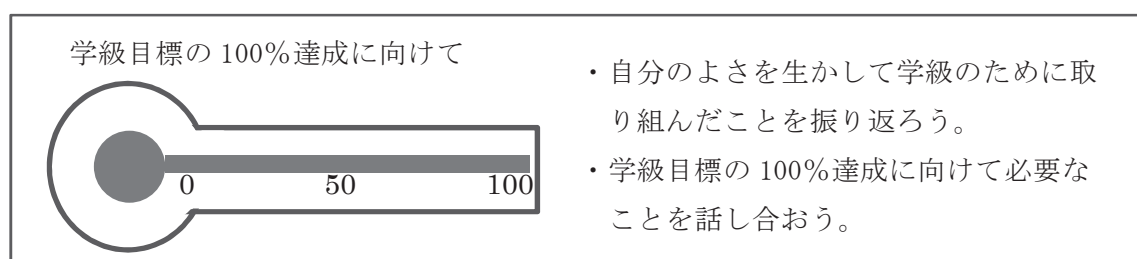
ウ 本時の展開

	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価方法
活動の開始 10分	1 本時の活動について 学級目標の振り返りと本時のねらいと進め方について説明する。	・学級委員に本時の活動の意義や展開について説明させ、その意義が生徒全体に伝わるようにし、自分事として取り組めるようにする。	
活動の展開 30分	2 学級目標達成メーターで、実践の振り返りをする。 3 前回自分で考えた個人の実践について評価を行いワークシートに記入する。 4 学級目標達成メーターで示された数値化された学級目標の達成状況を踏まえ、ワークシートに記入する。 5 生活班で学級目標「100%達成」のために協力して活動できることを話し合う。 6 生活班で話し合った行動目標について他班の生徒と意見交換する。 7 他班の意見を生活班で情報交換する。 8 個人目標を考える。	・今までの活動で学級がよくなっていることに気付かせ、自信につなげる。 ・学級目標達成メーターを用いて、学級目標の達成度を数値で自己評価できるようにする。 ・意見交換では、相手の行動で学級目標達成に役立っている行動を伝え合い、互いのよさや自己のよさに気付かせ、自信につなげる。 ・他班と意見交換したことを踏まえ、学級目標の達成に向けて個人目標を考える。	【関心・意欲・態度】 ・よりよい学級の生活づくりに関心を持ち、話し合い活動に自主的、自律的に参加しようとしている。 〔観察〕 【思考・判断・実践】 ・学級での集団活動の向上に関心を持ち、意欲的に自分の考えをまとめている。 〔ワークシート〕

活動のまとめ 10分	<p>9 本時の活動を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級委員の話 ・担任の話 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級委員から活動の振り返りと3学期に向けて活動を継続できるように成果と課題を伝える。 ・3学期に向けて生徒の意欲を高めることができるように担任が本時を総括する。 	
---------------	---	--	--

エ 資料等（実際の授業場面）

【学級目標達成メーター】



オ 検証授業を終えて

(1) 生徒の様子

- ・ 個人目標に基づき自分のよさを生かした実践を実行することが難しかった生徒は、振り返りを行ったことで、再度、個人目標を確認し、今後の活動に向けて意識を高めることができた。個人目標に基づき自分のよさを生かした実践ができた生徒は、新たな個人目標を設定して、学級目標の100%達成のために向上心をもつことができた。
- ・ 自分のよさを他者から伝えられることにより、自信をもって行動できるようになった。また他者のよいところを見いだそうとする姿が多く見られるようになった。

(2) 指導の工夫

- ・ 活動の意義を明確にし、生徒に伝わる工夫として学級委員が活動の意義について自分の言葉で説明できるように事前指導を行った。また、板書や掲示物を使用したことで視覚的に活動の意義を分かりやすく示すことができた。
- ・ 話し合い活動を活発にすることの工夫として、様々な意見に触れることができるよう、班員で話し合うことを基点に学級全体で話し合いの場面を設定した。また、まとめでは、話し合った結果を踏まえて個人目標を再設定できるようにした。
- ・ ねらいに則した評価を行い、実践を積み重ねる工夫として、学級の目標達成度を自己評価で確認し、よりより学級に向けた集団の評価につなげた。また、学級の目標達成度に基づく個人目標の自己評価では、自他のよさを生かした行動が、よりよい学級づくりにつながったことに気付かせ、生徒が取組に自信をもてるようにした。

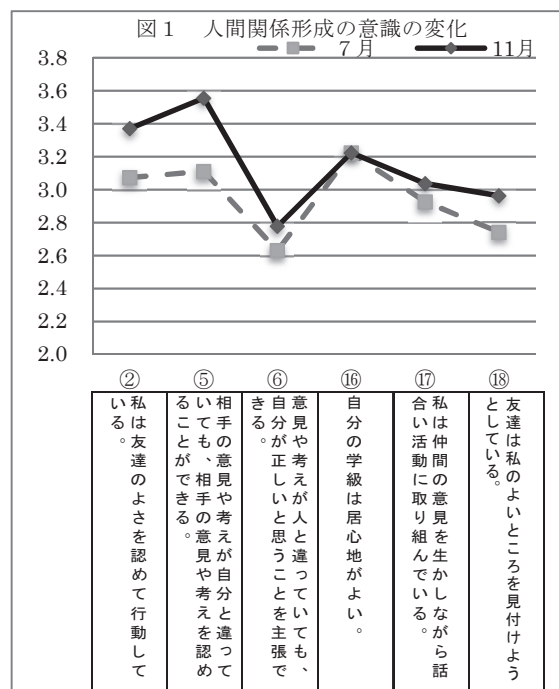
VI 成果の検証

1 特別活動において育成すべき資質・能力の三つの視点からの分析

本研究で作成した「学級活動に関するアンケート」（5 ページ参照）の質問項目を、新学習指導要領解説に示された、特別活動において育成すべき資質・能力の三つの視点である「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」と関連付けて分析した。分析は、事前調査である7月と事後調査の11月のアンケート結果から、回答番号の1～4を点数とし、それぞれの平均値を算出し、生徒の意識の変容を比較した。

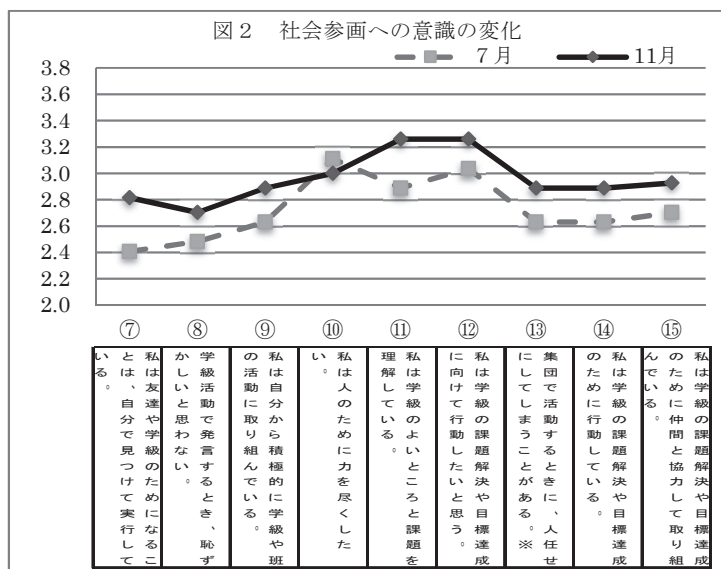
(1) 人間関係形成に対する意識の変化

「人間関係形成」に関する質問項目は右に示す図1のとおりである。各項目の数値は検証後に上昇しているが、特に「②私は友達のよさを認めて行動している」の項目と「⑤相手の意見や考えが自分と違っていても、相手の意見や考えを認めることができる。」の項目で、検証前と比較して、数値の上昇が大きく見られた。このことは、仮説の「自他のよさを認め合う」、「自分のよさや可能性を生かして」を実践することにも関わりのある「⑩友達は私のよいところを見つけようとしている。」の項目とも関連し、学級活動の中で友達のよさや学級のよさを伝え合う活動を重ねて、互いに認め合う関係を築くことができ、その結果、生徒は話し合い活動においても意見や考えの違いを肯定的に認められるようになったと考えられる。また、友達から自分のよさを認められることが増えることで生徒は自信をもって自分のよさを集団の中で生かすことができるようになったとも考えられる。



(2) 社会参画への意識の変化

「社会参画」に関する質問項目は右に示す図2のとおりである。各項目の数値は検証後に上昇しているが、特に「⑦私は友達や学級のためになることは、自分で見つけて実行している。」の項目と「⑨私は自分から積極的に学級や班の活動に取り組んでいる。」の項目で、検証前と比較して、数値の上昇が大きく見られた。このことは、仮説の「自分のよさや可能性を生かして」を実践することにも関わりのある「⑩友達は私のよいところを見つけようとしている。」の項目とも関連し、学級活動の中で友達のよさや学級のよさを伝え合う活動を重ねて、互いに認め合う関係を築くことができ、その結果、生徒は話し合い活動においても意見や考えの違いを肯定的に認められるようになったと考えられる。また、友達から自分のよさを認められることが増えることで生徒は自信をもって自分のよさを集団の中で生かすことができるようになったとも考えられる。

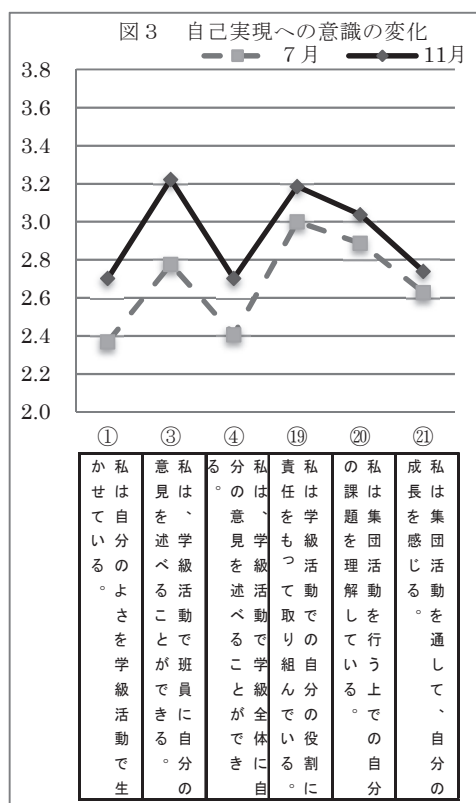


と思う。」の4項目について検証前と比較して、数値の上昇が大きく見られた。また、「⑧学級活動で発言するとき、恥ずかしいと思わない。」は、仮説の「自他のよさを認め合う話合い活動」や「自分のよさや可能性を生かして実践」することに直結する項目についても数値の上昇が見られた。

これは、今回の検証授業において「学級目標の実現」を題材として学級活動に取り組んだ結果であると考えられ、学級活動を重ねる中で、学級の課題に意識を向け、その解決のために、学級のよさや友達のよさを見付けたり、話合い活動に参加することで主体的に解決しようとする態度が身に付いてきていると考えられる。

(3) 自己実現に対する意識の変化

「自己実現」に関する質問項目は右に示す図3のとおりである。各項目の数値は検証後に上昇しているが、特に「①私は自分のよさを学級活動で生かしている。」、「③私は、学級活動で班員に自分の意見を述べるができる。」、「④私は、学級活動で学級全体に自分の意見を述べるができる。」の3項目で、検証前と比較して、数値の上昇が大きく見られた。これは「人間関係形成に対する意識の変化」により、互いを認め合う関係が構築できたことや「社会参画への意識の変化」により、学級目標の実現に向けて主体的に課題解決を図ろうとする意識が向上したことを受けて、実際に学級活動の話合いや他の場面で行動できているという自覚が高まっていると考えられる。学級活動の中に、友達のよさを見付ける活動や、学級のよさや課題を分析する活動や、話し合い、まとめる活動など全員が能動的に関われるものを計画的に取り入れたことにより、生徒の主体的な活動が促進されたと考えられる。



2 学級活動に関するアンケートの自由記述欄や取組後の生徒の感想等からの分析

以下に生徒に実施したアンケートの自由記述欄や取組後の生徒の感想などから成果を分析する。

(1) 学級活動に関するアンケート項目や自由記述欄からの抜粋

本研究では、「生徒が日常生活における自己の生活上の課題を、自他のよさを認め合う話合い活動を通して自分事として捉え、課題の解決に向けて自己のよさや可能性を生かして実践できるようになれば、自己実現に必要な資質・能力が高まるであろう。」との研究仮説に基づき、検証授業を行ってきた。

学級活動におけるアンケートでは、①学級活動で自分のよさを生かすこと、②学級活動を

通して自分の成長を感じる部分に関連した項目に自由記述欄を設けた。

①「私は自分のよさを学級活動で生かしている。」

②「私は学級活動を通して自分の成長を感じる。」

上記の項目について取組前後の肯定的評価（3、4）を選んだ生徒の割合とその変化は、以下のとおりポイントに上昇が見られた。（P 5 参照）

①事前アンケート 66% 事後アンケート 79% → 13ポイント上昇

②事前アンケート 77% 事後アンケート 83% → 6ポイント上昇

生徒の自由記述欄における記述の一部を以下に掲載する。

① 「自分のよさを書いてください。」

- ・ 人のよいところを探せる。
- ・ 何事にも挑戦する。
- ・ 困っている人を助ける。
- ・ あいさつをする。
- ・ 行事に積極的に参加する。
- ・ 他人に自分の意見をしっかりとと言える。

② 「自分の成長を感じるところを書いてください。」

- ・ 人のためを思って、自分から行動できるようになった。
- ・ みんなに説明するときに伝わりやすくなった。
- ・ まとめる役割に回っても説明が上手くできるようになった。
- ・ 学級活動の内容について友達と話し合うようになった。
- ・ 以前よりも自分の意見を述べられるようになった。
- ・ 友達のよいところを発表するときは、友達の様々なよさを言えるようになった。
- ・ 他人の気持ちを考えられるようになった。
- ・ クラスの仲間を理解できるようになった。

上記の①からは、今回の検証授業を行ったことで、自分のよさを具体的に捉えることができており、また、集団の中の行動としてどう生かしているかを考えることにつながっていることが分かる。また、②からは実践を積み重ねる中で、自分から積極的に他者や集団に働きかけることができるようになった様子や、学校生活の中で自分からよりよい人間関係を築くことへの意識が高まっている様子が感じとれる。

検証授業を続けていく中で、生徒が自分に自信をもち、積極的に自分のよさを生かして発言することや行動することなど、成長していく姿が見られた。また、自分のできることの可能性を広げ、さらには学級活動を超えて、他教科等の学習場面にも生かせることができるようになりつつあることがうかがえる。

自分のよさを生かすことに関連して「友達のよさを認めて行動している。」という項目については、以下のように生徒の回答に変化が見られた。

「友達のよさを認めて行動している。」について肯定的評価（3、4）を選んだ生徒の割合

とその変化は、以下のとおりポイントに上昇が見られた。

事前アンケート 90% 事後アンケート 97% → 7ポイント上昇

(2) 検証授業後のアンケート項目「取組の振り返り」における生徒の感想からの抜粋

以下の生徒の意見は、検証授業を終えた時点でのアンケート項目「取組を振り返って感じたことを書いてください」の問いに対する自由記述の一部である。

- ・ 全員が意見を出して、その意見を尊重して話し合いを進めることができよかったです。みんなも指示を聞いて行動してくれてやりやすかったです。本当によりよいクラスになれたらいいし、そうなれるように頑張ろうと思いました。
- ・ 授業を通して自分のよいところ、直さなければいけないところ、友だちのよいところなど、たくさん知ることができた。また、今後クラスの課題をしっかりと考えていき、クラスがよりよくなるように、仲間として頑張っていきたいと思いました。

授業の中で司会を務めた学級委員は、今回の授業を通して自分の役割とクラスの課題を見つけ、今後クラスを自分たちの力で改善していきたいという向上心が出てきている。授業の最初に学級委員が自分たちの思いをクラスの仲間たちに語っていたことにより、生徒もその思いをくみ取り、話し合い活動が充実したものになった。

- ・ 学級委員のまとめ方がとても上手で、話し合いがスムーズに進んだ。班では皆盛り上がり、自分のよさを生かした改善策についてたくさんの意見を言えた。自分がこれからクラスのために頑張ることを明確に決められたと思う。
- ・ 自分のことやクラスのことを、学級目標に基づいて振り返ったことで、クラスの団結力が高まったと思う。もっといいクラスにしていきたいと思った。
- ・ 自分の意見や考えが皆とほぼ変わらず、クラスのために同じことを望んでいるのだなと分かった。みんながクラスをよくしたいという気持ちがあることが分かってよかった。
- ・ クラスの皆が一人一人を見ていて、クラスをよりよくしようとしているのが分かった。

検証授業を行う中で、学級目標を通して、生徒は自分が学級のために何ができるのかを考え、互いに意見を出し合う機会を増やすことができていた。検証授業前に行った生徒対象のアンケートでは、自分の意見を発言することが苦手であることが挙げられたが、検証授業を通し、自分たちで学級目標を最大限実現させることを目的にして、学級の団結力の高まりや目標実現に向けた一体感を感じられるようになった。そのため、相手のよさに気付いたことを基にした意見も言いやすくなったと考えられる。

- ・ 相手の長所を見付けることで相手としっかり向き合うことができ、さらに自分にも改めて向き合うことができたと思う。今回のように自分がどう思われているのかについて今まで話し合うことはあまりなかったから、自分のことを深く知ることのできる貴重な体験となった。
- ・ 皆がよいところを見付け合えば、もっといいクラスになると思った。
- ・ 相手のよいところは分かっていたが、付箋に書いて相手に渡したことや自分もよさが書かれた付箋をもらえたことで、改めて自分のよさや友達のよさについても知ることができた。付箋をもらえてうれしかった。

生徒は、今まで自分のよさを自覚する機会が少なく、そのよさが学級活動で生かしているのか実感がもてない生徒が多かったが、本研究の推進により、改めて生徒は自分の声で自分のよさを他者に伝えていくことの大切さを感じることができた。また、その活動を続けていくことで、自分に自信をもてるようになってきたことが以下の感想でも分かった。

- ・ 自分が学級のためにできることはまだたくさんあるから、もっと実行したいと思った。そのためは、クラスのために責任感をもって行動したい。
- ・ クラスの役に立てると嬉しいということが分かった。
- ・ 自分のよいところを他人から教えてもらえると嬉しいと感じた。
- ・ 友達の意見を取り入れることで、自分のよさについて新しい発見があった。

今回の授業で「自分のよいところ」を他者から伝えられたことにより、気付かなかった自分のよいところを発見した生徒が多かった。自分のよさを自覚することによって、クラスのために今後も頑張りたいという意見が多く書かれていた。

- ・ 自分が周りからどんな風に思われているかを知れてよかった。自分のよいと思われている行動をより生かして頑張ろうと思った。
- ・ 普段は恥ずかしくて面と向かって言えない友達のよいところを相手に伝えることができよかった。友達のよいところをより伸ばせるよう、自分も協力したいと思った。
- ・ 自分が頑張っている行動が見られていると思って、また、クラスのみんなが「全力でやらなくては」と思えるように、よりよい行動を増やしたいと思った。
- ・ 「誰かがやってくれる。」と思わず、積極的に行動し、困っている人を助けたい。

自分のよいところを伸ばしたいと書いていた生徒が多かったが、相手のよいところをもっとよくなるように協力したいという意見が複数出てくるようになった。また、自分のよさを生かして積極的に相手と関わろうとする生徒もいることから、自分のよさを生かして学級をよりよくしたいという建設的な意欲が高まったことがうかがえる。

VII 研究の成果

本研究は「自己実現のために必要な資質・能力を高める学級活動の工夫～自他のよさを認め合う話し合い活動を通して～」を研究主題と設定し、「生徒が学級における自己の生活上の課題を、自他のよさを認め合う話し合い活動を通して自分事として捉え、課題の解決に向けて自己のよさや可能性を生かして実践できるようになれば、自己実現に必要な資質・能力が高まるであろう。」という研究仮説に基づき、研究を行った。本研究の成果は以下のとおりである。

1 自己実現に必要な資質・能力について

本研究では、特別活動において育成を目指す資質・能力について、整理された視点である「自己実現」に着目し、「自己実現」の資質・能力を「自己のよさや可能性を生かす力」と仮定した。そのため、「自己のよさや可能性を生かす力」を、学級目標達成に向けて課題解決するために、個人目標を設定することで、集団において生徒個人に何ができるかを考えさせた。

その結果、生徒は学級の成長に向けて互いのよさを知り、個人目標が達成できたか否かだけでなく、様々な角度から自分の行動を見つめ直したことにより、互いのよさを認め合う活動を通して、自己のよさや可能性を生かしながら学級をよりよくしようとする「自己実現」に係る資質・能力を高めることができた。

また、学級目標の実現を軸に、同じ方向を向いて学級の生徒一同が活動したことで、よりよい集団を構築することを自分に関わりのあることとして捉えることができ、その結果、生徒が自己の在り方や生活を改善することについて主体的に考えることができるようになった。その際、自己のよさに基づき自信を深めたことや学級の課題を整理することを通して、自分のよさだけでなく学級や自己の課題についても他者の視点を通して客観的に見つめることができるようにもなった。

2 ねらいや意義の示し方の工夫について

本研究では、授業中、学級委員が司会や班活動などで主体的に活動する場面を多く設けた。その中で、学級委員の経験や性格などを踏まえ、司会原稿や話し合い活動における支援の話型の準備など、事前の指導を十分に行った。事前指導では、学級委員が読む司会原稿に活動の意義に関わる箇所を、自分の言葉で他の生徒に伝わるように文言を校正したことや、話し合い活動における支援の話型の用意などで、説明を受けた生徒は学級目標の達成が自分に深く関わりのあることとして捉えられるようになった。学級委員はこれらの経験を通して、他人のために力を尽くすことの素晴らしさや、自分の役割に責任をもって行動することの大切さ、自分のよさを学級活動で生かした実感などが得られ、自信をもつことにつながられた。

また、活動の意義を生徒自身で伝えられるようになるために、個人目標などの掲示物を作成し、生徒に記入させたことで、生徒一人一人の考えや思いを学級全体で把握し、学級目標の実現に向けた個人の実践について、生徒各自で理解を深めることにつながった。

個人目標などの掲示では、学級委員や他生徒が協力して掲示物を作成し、帰りの学級活動で説明を行ったことで、生徒自身で主体的に活動し、よりよい学級を作り上げていこうとする意欲を高めることにつながることができた。

3 話し合い活動を充実させるための工夫について

本研究では、小集団や学習集団の中で話し合い活動を取り入れることを意識し、検証授業を設定した。検証授業では、学級の課題を基にしたアンケートを生徒主体で整理することや、付箋に記入した他者のよさを自分の言葉で伝え合う活動を行ったこと、ホワイトボードや付箋を活用した視覚による他者意見の理解促進を図ったことなどを通して、生徒は互いのよさに気付くことができ、自分のよさを生かして自分の意見を言えるようになった。また、話し合い活動を苦手とする生徒は、検証授業前と比較すると、積極的に授業に参加し、意見を述べる姿が見られるようになった。

4 評価や振り返りを積み重ねることの工夫について

本研究では、ワークシートを使用し、相互評価や自己評価による振り返りを実践した。その中で、話し合い活動では相手のよいところを付箋にして渡すことを継続的に行うことによって、他人の様子や行動を肯定的に捉えようとする気持ちが醸成されるようになってきた。生徒は、他者から自分のよさが書かれた付箋をもらうことで、自分では気付かなかった自分のよさに気付くことができ、他者の視点を踏まえ、客観的に自分を理解する力を高めて、自信を付けることができた。

個人目標の実践では、帰りの学級活動における各自の振り返りや第2回検証授業における中間の振り返りなど、記入したワークシートの自分の考えを一枚の用紙や掲示物にまとめたことで、生徒が常に自分の活動を視覚的に振り返ることができ、自分の考えの変化について適時感じられるようになった。その結果、自分のよさを自覚し、学級活動で生かしているという実感を得ることができた。この実感は、自分のよさや可能性を生かして、学級をよりよくしようとする態度にもつながった。

VIII 研究の課題

「自己実現」に必要な資質・能力の育成は、小学校の6年間と合わせた中学校の3年間の学級活動の積み重ねであり、それは高等学校においても引き続き育成されていくものと考えられる。そのため、教師が意図的、計画的に学級活動を設定し、生徒の「自己実現」に係る資質・能力を伸ばしていく必要がある。そこで、学年や学校全体で「自己実現」に向けた資質・能力の共通理解を図り、学校の教育活動全般にわたった横断的な取組が必要と考えられる。そのため、学級活動の意義やねらい、生徒に対する有用性を更に周知し、実践していく必要があると考え、以下に課題を挙げる。

1 「自己実現」、「人間関係形成」、「社会参画」の視点を踏まえた実践の継続

検証授業前に、生徒に実施したアンケート結果では、新学習指導要領の特別活動の目標に掲げられた資質・能力の三つの視点である「自己実現」が、「人間関係形成」、「社会参画」と比較すると、数値が低かった。そこで本研究では、生徒たちの「自己実現」に必要な資質・能力を高めることとして「自分のよさや可能性を生かすこと」に着目し、検証授業や日々の実践を行った。検証授業後に生徒に実施したアンケートでは、「自己実現」の項目で肯定的な評価の上昇が見られたが、特に「人間関係形成」の項目における生徒の肯定的な評価の上昇が顕著であった。また、「社会参画」の項目⑩「私は人のために力を尽くしたい」の数値が若干減少した。これは生徒が相互評価などを重ねていくうちに、自分自身を客観的に理解できるようになった結果と考えられるが、自己評価を厳しく行うようになったことも考えられる。今後も、生徒が他者の視点を踏まえて客観的に物事を捉えながらも、自己のよさや可能性を生かしたという実感が得られる授業や日頃の実践の継続が重要である。

今回の研究で生徒が自他のよさを認め合う話し合い活動を通して、自己のよさを生かした実践から自信を感じられるようになり、「自己実現」のために必要な資質・能力が高められたこ

とが分かった。しかし、その自信がどのように「自己実現」につながったのかを、2学期という短い期間の取組で判断することは困難である。そのため、長期的な計画として今回の「自己実現」に係る取組の実践を継続していく必要がある。

2 身に付けさせたい力・目指す生徒像に基づく長期的な実践

研究構想図で示したように、本研究では「自己のよさや可能性を生かして、生活の課題を発見し、よりよく改善しようとする生徒」を育てるために、「自己実現」に焦点を当てて、実践・検証授業を行った。その結果、生徒は互いのよさを認め合い、自信を深めたことがワークシートなどから把握できた。しかし、それらの成果は小・中学校の9年間を通して系統的に「自己実現」を達成していくことで身に付けるものであり、長期的な視野に基づく実践の積み重ねが必要である。そのため、「自己実現」のために必要な資質・能力や身に付けさせたい力及び目指す生徒像に基づき、教師が指導・評価を継続する必要がある。

3 各教科等における話し合い活動の充実

本研究では生徒の話し合い活動を重視し、実践した。生徒各自は、できるだけ多くの生徒と話し合い、互いのよさを認め合えるようにした。その結果、生徒は多様な意見に触れて自分のよさに気づき、自分のよさを生かして実践することができるようになった。この結果は、他教科等でも生かせる内容であり、生徒が話し合い活動を通して互いに意見を伝え合う力を身に付け、学習活動が活性化することは、「自己実現」のために必要な資質・能力を高めることにもつながっている。そのため、教育課程における各教科等の年間計画における重要項目として話し合い活動を位置付ける必要がある。

4 リーダーを育てつつ、日常生活の中でできる取組を考えた実践

学級委員が司会進行、話し合い活動の支援を行ったが、話し合いを進める中で、話し合いを整理できる班長を育てていく必要があることが分かった。よりスムーズに話し合いができ、学級の諸問題を自分たちで主体的に解決しようとする集団をつくるためには、学級委員とは別に、班活動などで積極的にリーダー性を発揮できる生徒を育成する必要がある。

5 「自分のよさ」を生かした活動の充実

本研究において、生徒は「他人から認められたい。」という承認欲求を強くもっていることがアンケートや聞き取りなどで分かった。他人から自分のよさを認められたことで自信をもち、学級をよりよくするために「自分のよさ」を生かして行動することにつながることができた。「自分のよさ」を生かした活動は、様々な行事や他教科の学習等においても関連しており、学級活動以外の各教科等においても、意図的に生徒各自がもつ「自分のよさ」を互いに認め合い、生かすことができれば、学習意欲の向上につながると考えられる。「自分のよさ」を生かした活動の充実は、年間を通して他教科等でも、計画的に取り組んでいく必要がある。

平成 30 年度 教育研究員名簿

中学校・特別活動

学 校 名	職 名	氏 名
中 野 区 立 第 二 中 学 校	主任教諭	渡 邊 ア ヤ 乃
練 馬 区 立 石 神 井 東 中 学 校	主任教諭	◎ 岩 崎 航 太
葛 飾 区 立 常 盤 中 学 校	主任教諭	大 橋 え り
江 戸 川 区 立 南 葛 西 中 学 校	教 諭	三 枝 剛
狛 江 市 立 狛 江 第 一 中 学 校	教 諭	佐 野 祐 太

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部指導企画課

指導主事 澁谷 哲宏

平成 30 年度

教育研究員研究報告書
中学校・特別活動

東京都教育委員会印刷物登録
平成 30 年度 第 135 号

平成 31 年 3 月 発行

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6849
印刷会社 康印刷株式会社